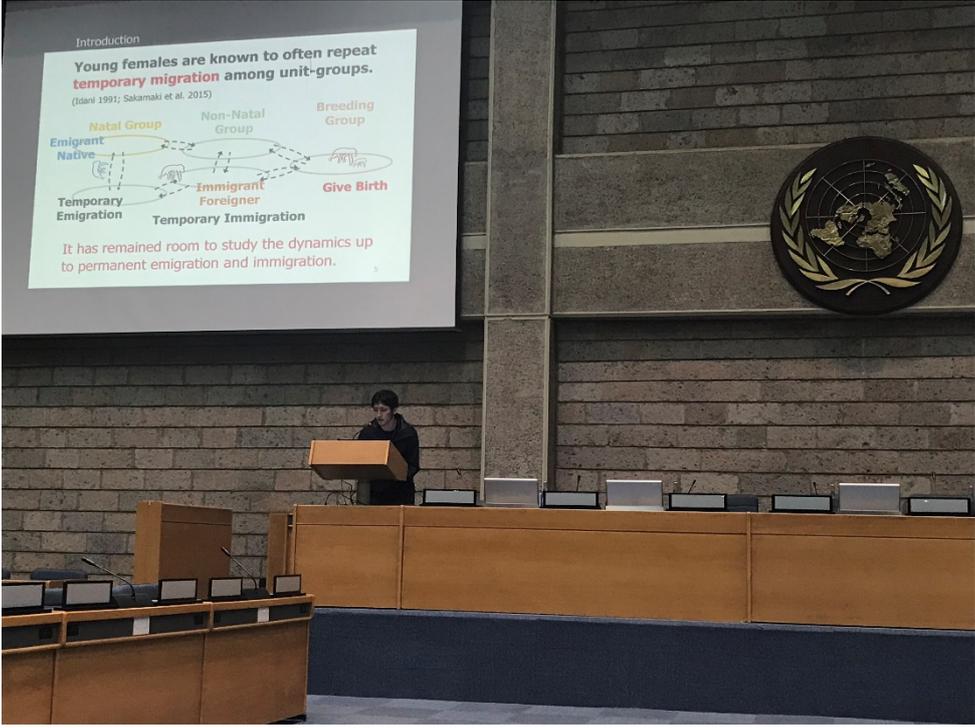


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

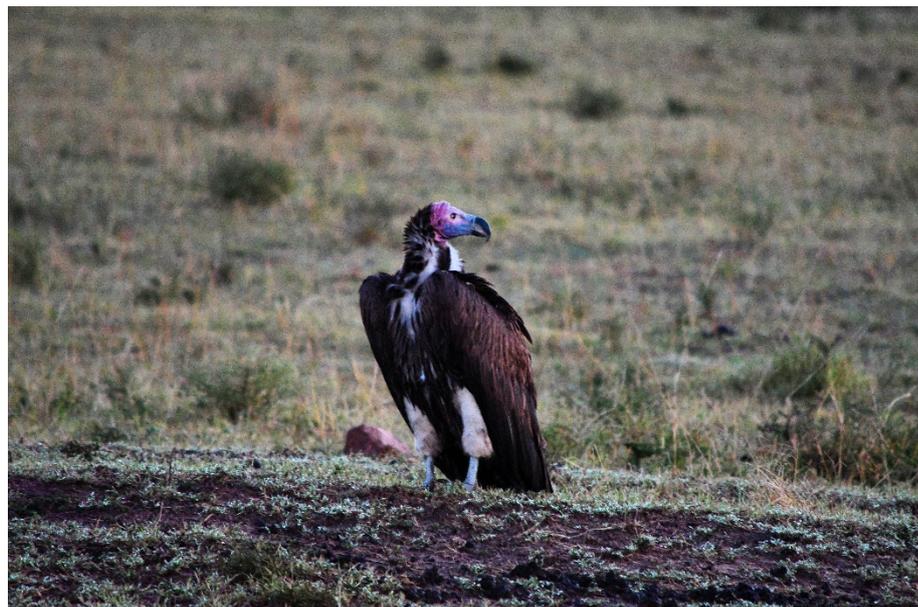
平成 30 年 09 月 03 日	
所属部局・職	京都大学、霊長類研究所・博士課程
氏名	戸田和弥

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
ケニア、ナイロビ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
国際霊長類学会大会への出席、ボノボメスの集団間移籍に関する研究発表
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 08 月 18 日 ~ 平成 30 年 08 月 29 日 (12 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
国際霊長類学会
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>国際霊長類学会大会では、ボノボメスの集団間移籍におけるメスの動態について発表しました。ボノボの若いメスは、集団間で移出入を繰り返すことが知られており、本発表研究では、対象集団における出自メスの移出、在外メスの移入を、操作定義によって個体出席表を調べることで、移出入の年齢や間隔を含む、出自集団から離別から、他集団への定着、初産まで、ボノボメスの集団間移籍の一連の流れを紹介した。</p> <p style="text-align: center;">シンポジウム「霊長類の集団間関係の動態」での発表</p> 

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

大会終了後、ケニアに生息する野生動物を観察するため、マサイマラ国立保護区のサファリに参加した。サバンナ林とそこに生きる動物を見るのは初めてで、同じ赤道直下でも、いつも調査しているコンゴ民主共和国の熱帯雨林の風景とは全く異なり、見晴らしが非常によく、車上からの眺めは爽快だった。動物たちの撮影は大変充実したものだだった。



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



(謝辞)

ケニアでの国際霊長類学会大会へ参加するにあたり、京都大学 Primatology & Wildlife Science リーディング大学院プログラムより多大なサポートを頂きました、ここに厚くお礼申し上げます。また、本大会の運営者、スタッフの皆様にご心より感謝いたします。